乳幼児期の子どもを持つ母親の「ひとりの時間」の意味

鈴　木　亜　美

本研究では18名の乳幼児期の子どもを持つ母親に「ひとりの時間」についてのインタビュー調査と質問紙調査を行った。目的は3つあった。①「ひとりの時間」の行動面と感情面を明らかにすること②行動面と感情面の繋がりをもとにグループ分けをすること③グループごとの「ひとりの時間」と「夫婦関係満足度尺度」,「母親アイデンティティ尺度」,「育児不安尺度」を検討することであった。

結果，行動面については「ひとりの時間」は3段階に分かれた。第1段階として【生活に根づくものとしての「ひとりの時間」】，第2段階として【受動的な過ごし方である「ひとりの時間」】第3段階として【能動的な過ごし方である「ひとりの時間」】であった。一般的には，第1段階，第2段階，第3段階と満たして進む。ただし，例外も存在した。

「ひとりの時間」の感情面は，母親はひとりの時間に「ポジティブ」な気持ちを抱くだけではなく，「ネガティブ」な気持ちも生じることが明らかとなった。加えて，ネガティブでもポジティブでもない「中間的」な気持ちを抱いていることが示された。

行動面と感情面の繋がりについて，グループは7つに分類された。グループ1は行動面の第1段階で止まっていた。グループ2は第2段階で止まっているかつ，ポジティブと中間感情のようにポジティブよりに語りがなされていた。グループ3は行動面の第2段階で止まっているかつ，ポジティブ，ネガティブ，±中間感情とバラエティ豊かな語りがなされていた。グループ4は行動面の第3段階で止まっているかつ, ポジティブな語りのみがなされていた。グループ5は第3段階で止まっているひとかつ，ポジティブ，ネガティブ，±中間感情とバラエティ豊かな語りがなされていた。グループ6は行動面で第1段階と第3段階のみであり，第2段階を抜かした語りがなされていた。グループ7は「ひとりの時間」がないと答えた人であった。以上7つのグループが確認できた。

次に，各質問紙尺度と「ひとりの時間」のグループごとの関連である。まず,「夫婦関係満足感」である。グループ1から5に進むまでの「夫婦関係満足度」の得点はバラバラであった。したがって,「夫婦関係満足度」とグループごとの「ひとりの時間」は関連が見られなかった。次に「母親アイデンティティ」である。グループ1から5に進むまでで「母親アイデンティティ」の得点は概ね高くなっていった。したがって,「母親アイデンティティ」とグループごとの「ひとりの時間」の関連は示された。最後に「育児不安」である。グループ1から5に進むまでで「育児不安」の得点は概ね低くなっていった。したがって,「育児不安」とグループごとの「ひとりの時間」の関連は示された。以上から，乳幼児期の子どもを持つ母親が「ひとりの時間」を確保する大切さが示された。